

**2021年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部 人間研究学域
「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・
中国語・朝鮮語）」**

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
人間研究学域	4	2	2

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

これまでに培われた語学の能力や国際交流の経験を活かして、今後は何をこなうつもりなのか、将来的にはどのような人になりたいのか、人間研究学域での学びとそれらはどのようにつながっているのかを、明確かつ説得力ある仕方で説明しているかどうかを主に評価しています。

(2) 解答状況

上記評価ポイントについて、人間研究学域での学びとの関連性を明確に説明しているものとそうでないものとの間で、大きな差が見られました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

第一次選考と同様、これまでに培われた語学の能力や国際交流の経験を活かして、今後は何をこなうつもりなのか、将来的にはどのような人になりたいのか、人間研究学域での学びとそれらはどのようにつながっているのかを、明確かつ説得力ある仕方で説明しているかどうかを主に評価しています。

(2) 解答状況

第二次選考に残った受験生が少なかったこともあり、全員がおおよそ及第点には達していたと思いますが、今後は何をこなうつもりなのかについては、もう少し明確なビジョンをあらかじめ構想したうえで、面接に臨んでもらいたいという印象を受けました。

(3) 試験（面接）内容

第一次選考と同様、これまでに培われた語学の能力や国際交流の経験を活かして、今後は何をこなうつもりなのか、将来的にはどのような人になりたいのか、人間研究学域での学びとそれらはどのようにつながっているのかを尋ねたうえで、その回答の内容をもう少し深めるような質問をおこなっています。その中には、各受験生の語種や能力に応じた、語学的な知識やセンスを問う質問も含まれています。

(4) 出題（面接）の意図

人間研究学域での学びとの適合性や、大学で求められる能動的・主体的な学びの態度が垣間見られるかどうかや、語学的な知識やセンスなどを確かめようとしています。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

例年、「国際交流」をことさらに強調する受験生は多いですが、語学の活用法は国際交流だけには限られないはず（そもそも国際交流のためだけならば、わざわざ大学に行く必要もないでしょう）。むしろ、これまで培われてきた語学の能力を、人間研究学域での学びとどのように結びつけていきたいのか、また、それらの能力や学びを将来的にはどのような形で活かしていきたいのかを、もう少ししっかり考えてもらえればと思います。

また、例年半数くらいの受験生が、人間研究学域での学びとの適合性の面で、及第点に到達していません。とりわけ、教育人間学専攻への分属を希望する受験生には、その傾向が顕著に見られます。教育といえば学校、教育といえば心理といった具合に、教育という言葉が喚起するイメージを自らの興味関心と安直に結びつけた、手前勝手な解釈のもとに志望理由を構想するかぎり、およそ人間研究学域の学びとはかけ離れたものになっていきます。そのような事態を防ぐためには、まず、教育人間学専攻が単なる「教育学」専攻とは異なる名称を冠している意味や、教育人間学専攻でおこなわれている教育や研究の内容を、しっかりと把握してください。そのうえで、イメージ先行ではないあなたらしい「問い」を携えて、志望理由を構想してもらえればと思います。同じことは、哲学・倫理学専攻への分属を希望する場合にも、多かれ少なかれ当てはまると思います。

以上